

[成果情報名]ケヤキ人工造林地におけるクワカミキリ被害の回避法

[要約]ケヤキ人工林におけるクワカミキリ被害は、枝打ちにより産卵箇所や既穿孔幼虫を除去することにより軽減される。

[キーワード]クワカミキリ、ケヤキ人工林

[担当]総合農林試験場・林業部・森林環境科

[連絡先]電話 0957-26-3330 電子メール kikuo.y@pref.nagasaki.lg.jp

[区分]林業（森林保護）

[分類]普及

[背景・ねらい]

近年、水土保持や多様な森林造成に関心が高まり広葉樹植栽に関心が高くなっている。その代表としてケヤキが植栽される事例が多く、県内では50haを超えている。一方、植栽されたケヤキは、クワカミキリの穿孔被害を受け易く、激害地では他樹種への転換を余儀なくされる事例もでてきた。そこで、クワカミキリの被害実態を調査し、穿孔性被害を回避するための施業方法を示す。

[成果の内容・特徴]

1. ケヤキの側枝の枝又部に好んで産卵する（図1）。
2. ケヤキ人工林のクワカミキリ被害地において枝打ちを行うと、 齢級・ 齢級共に産卵される本数が減少し、被害が軽減される。（表1）。
3. 被害木を伐採すると、株の大小に関わらずよく萌芽する（図2、3）ので、芽掻きをして萌芽更新させる事ができる。

[成果の活用面・留意点]

- ・これから新植する場合は、下刈りの程度を低くし、侵入する有用広葉樹との競合により、下枝や枝張りを少なく、枝下の高い林形に仕立てる。
- ・既植栽済の林分にあっては、枝打ちを実施し、側枝が出ないよう枝分岐部の高さまでの下刈りに控える。
- ・5年生までは耐陰性が弱いので、被圧されない程度に管理する必要がある。被害木や曲がり木を萌芽により更新させる場合は、特に注意が必要である。
- ・植林地内に侵入及び林縁部にあるヤマゲワ、イヌビワ、コウゾ等はクワカミキリ成虫の食樹となるので、これを除去する。

[具体的データ]

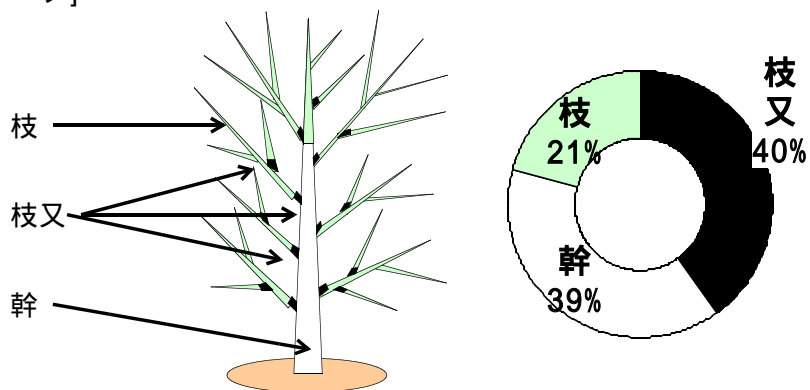


図1 ケヤキ部位別のクワカミキリ産卵比率

表1 枝打ち施業後の産卵本数の推移

地区	調査年	区分	調査本数	産卵本数	産卵個数	産卵本数率%	本当たり産卵数
A	14	枝打林分	30	16	33	53.33	2.06
		対照林分	30	22	35	73.33	1.59
	15	枝打林分	28	13	27	46.43	2.08
		対照林分	28	17	31	60.71	1.82
B	13	枝打林分	100	7	8	7.00	1.14
		対照林分	50	5	5	10.00	1.00
	14	枝打林分	99	14	17	14.14	1.21
		対照林分	49	9	12	18.37	1.33
	15	枝打林分	98	29	33	29.59	1.14
		対照林分	49	17	29	34.69	1.71

A地区： 齡級 B地区： 齡級

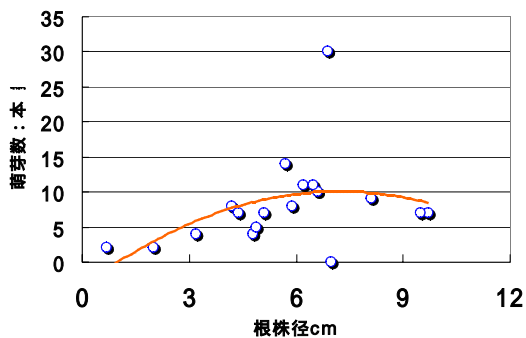


図2 根株径別萌芽数

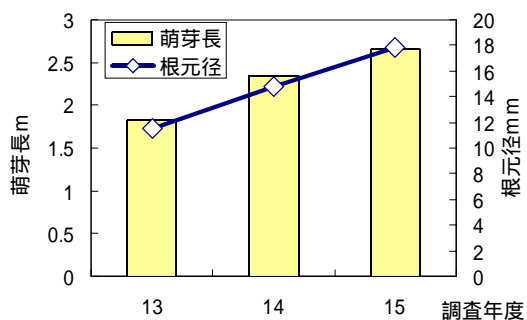


図3 萌芽の生長

[その他]

研究課題名：昆虫を指標とした里山広葉樹林の評価手法及び管理手法に関する調査

予算区分：国費 1/2，県費 1/2

研究期間：2001～2003年度

研究担当者：吉本貴久雄